

「米朝首脳会談」

2019年03月04日

米国のドナルド・トランプ大統領と北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）の金正恩委員長
の首脳会談が、2月27日、28日、ベトナムの首都ハノイで行われた。金王朝のためなら命
を献げるといふ、戦時中の日本と同じ北朝鮮の恐怖独裁政治を認めることはできない。北
朝鮮の国家予算は、日本の一県と同じくらいで、米国とは天と地ほどの違いがある。それ
にもかかわらず、米国と対等に渡り合う金委員長に少なからず敬服する。ひとえに、核を
保有したからである。今回の会談は、核兵器を保有した北朝鮮が非核化するかどうかであ
るから、世界中の人々の関心を集めた。

トランプ大統領は、メキシコ国境の壁建設問題、ロシア疑惑など、国内で揉める問題を
抱えており、北朝鮮との会談で外交的ポイントを上げて、二期目の大統領選挙を有利にし
たいと気負っていただろう。金委員長も経済制裁で苦しい状況に置かれ、何とか非核化を
バネに制裁解除を勝ち取り、国の経済発展をしたいと目論んでいただろう。その両首脳
の会談は成功するものと世界は期待していた。一日目の両首脳は笑みを浮かべて歓談して
いた。西側の記者から、非核化について問われると、金委員長は気軽に、「その意志がなけ
れば、ここに来なかった」と答え、トランプ大統領は我が意を得たりと喜んでいた。

ところが、二日目の午後、会談は急転し、合意ができず、文書に署名することはなく、
物別れとなった。首脳会談を行う場合は、事務的な話し合いが積み重ねられ、既に合意が
なされており、首脳は顔を合わせ、握手して、署名するだけのものと思われていた。午後
4時過ぎに、トランプ大統領が記者会見を持った。トランプ大統領は、北朝鮮は核施設
の中核をなしていた寧辺の廃棄、解体をする見返りに、経済制裁の全面解除を求めてきた
ので、それでは合意できないと、拒否したと語っていた。それが本当なら、会談は決裂す
るだろう。私は、北朝鮮は相当数の核施設の廃棄、解体と実証検分を認めるだろうと思っ
ていたが、初めから、制裁の全面解除を求めるとは思っていなかった。北朝鮮は、事前の
事務的な話し合いもなく、そんな要求を突然、本当にしたのだろうか。完全非核化を達
成するためには、少なくとも数年はかかると言われている。非核化も徐々に、そして、
経済制裁の解除も徐々にというのが常識ではないかと思うからである。二日目の深夜、
北朝鮮の李容浩外務大臣が急遽記者会見を行った。李外相は、北朝鮮は制裁の全面解
除を求めている、国民生活に支障をもたらしている一部分の解除を求めたに過ぎない
と言っていた。北朝鮮の国民は現在、飢えと寒さに襲われているに違いない。トランプ
大統領と李外相の記者会見の発言は真っ向から対立している。どちらが真実なのかは
分からない。会談は物別れ、北朝鮮の国民は苦しみの中に放置されることになった
ことは明瞭である。

米朝首脳会談の最中、米国の下院では、トランプ大統領のロシア疑惑についての公聴
会があり、マイケル・コーエン氏により、トランプ大統領に不利な証言がなされた。
大統領は北朝鮮に譲歩した合意をするより、毅然と拒否する方が国民の支持を得られる
と考え、あえて物別れの道を選んだのではないかと。そういう解説が話されていた。政治
は華々しく演出するが、何と非情で、権力者の思惑でいかようにも動くものかと、
暗澹たる思いになる。北朝鮮は核、ミサイル実験はしないと明言した。両国は、
話し合いは継続すると言っている。この二つに希望を託し、朝鮮半島の非核化を望む。

安倍晋三首相は拉致問題について、トランプ大統領に頼り切っているが、それでは
埒が明かない。安倍首相は強硬な制裁論者であるが、国民を守れずむざむざ拉致
されたのだから、安倍首相が金委員長と直接会って、取り戻さなければならない
ことではないか。